



ソルトレイクアートセンター・秋

2001年11月26日

# KAZUO KADONAGA

## Wood Paper Bamboo Glass

この展示は、アンディ ウォーホル視覚芸術財団と、  
ジョージ S. & ドロレス ドロエ エクルズ財団からの助成金によって可能になりました。

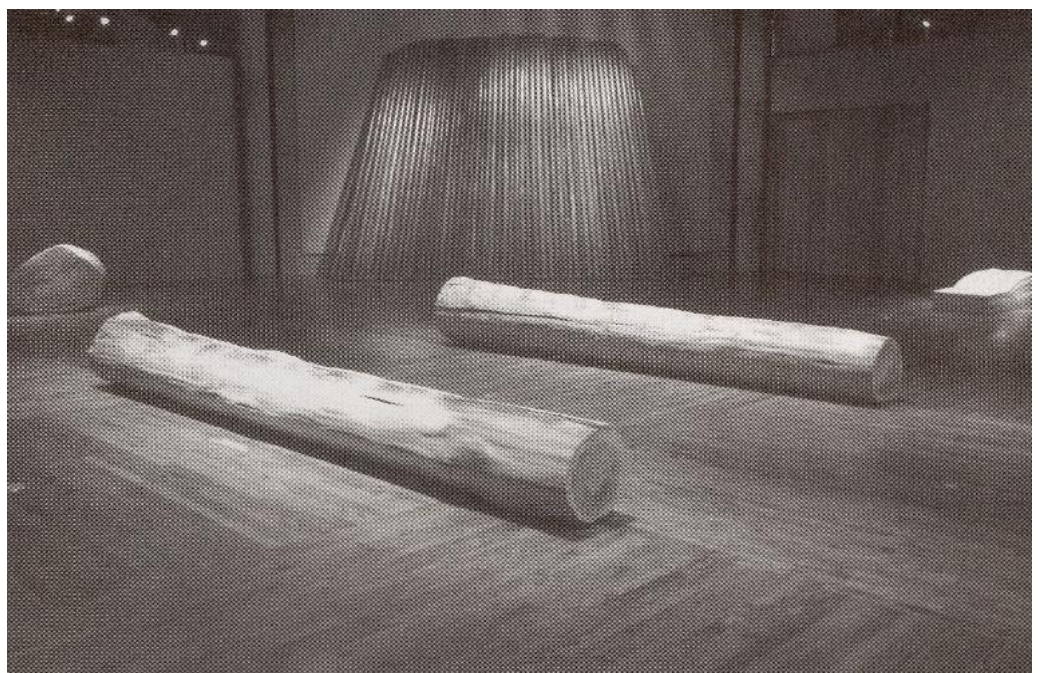
日本の芸術家角永和夫は、自然素材の固有の構成と品質を実証することを目指して、彼の芸術からすべての任意の要素を排除します。彼の作品は、木材、竹、紙、ガラスなどの材料の物理的特性との直接的な関わりと、一見静的な物質の隠れた活動を可視化するシステムによって際立っています。ユタの聴衆は、ソルトレイクアートセンターのメインギャラリーに現在展示されているこの重要な国際的なアーティストの作品を見る前例のない機会があります。

ギャラリーは、記念碑的な木とガラス、竹と手漉きの紙の配置によって変形されました。各オブジェクトは、それが配置されている環境に反応できるようにアーティストによって操作されているため、マテリアルがそれ自体でフォームを決定できるようになっています。たとえば、樹皮のない丸太が床に仰向けに置かれます。それは紙のように薄いシートに縦にカットされ、再組み立てされました。木材が温度と湿度の変化に反応すると、紙の薄いシートが反応して丸太の表面と外観を変化させます。

シートがランダムなパターンで曲がりたりカーブしたりするときに、視聴者は素材の特徴と本質に正面から向き合います。角永さんは「木と竹の会話」というインスタレーションで、たくさんの木片と竹を割れる寸前ま

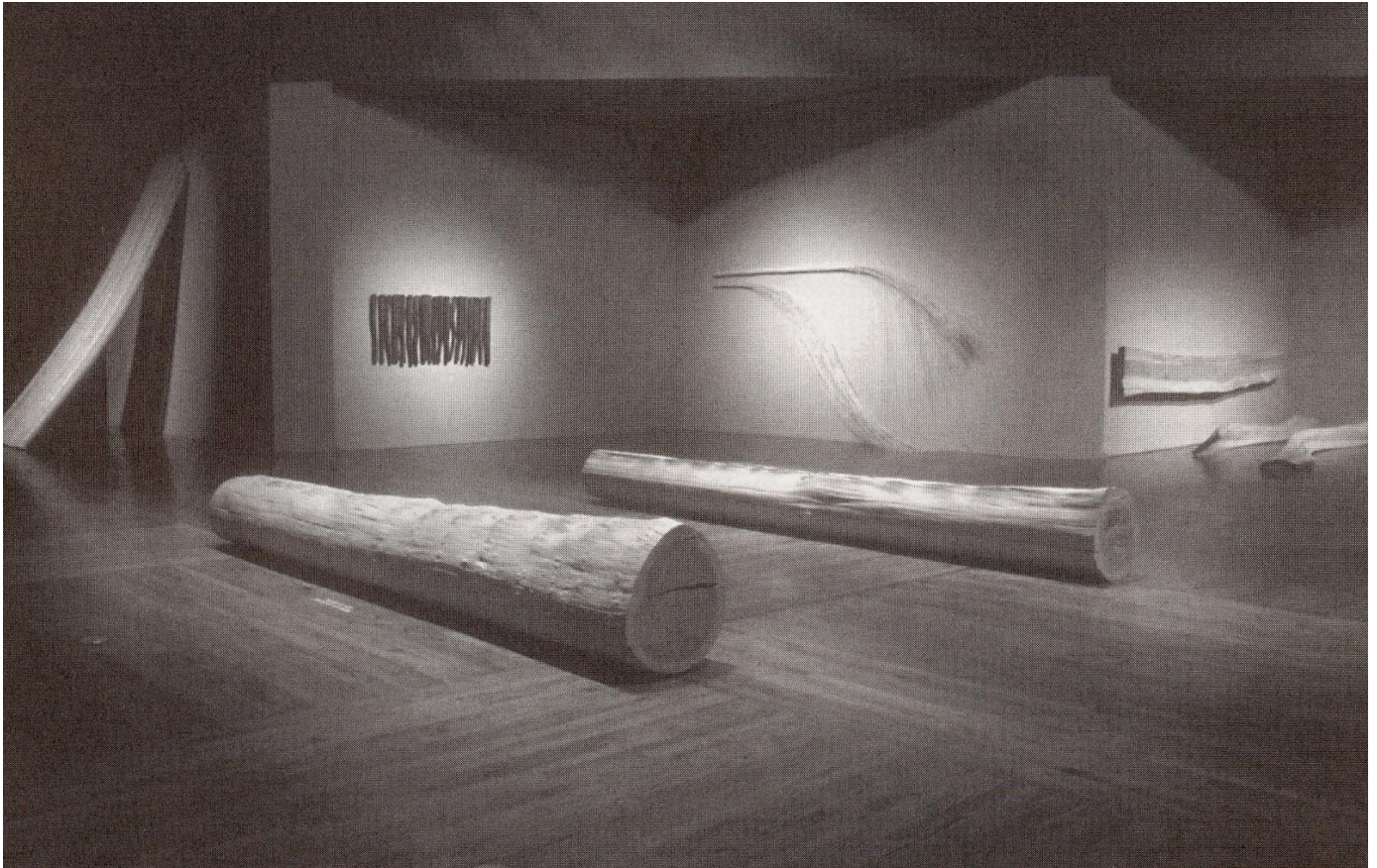
で乾かし、ギャラリーに置いた。ギャラリーの中央にスポットライトの下に椅子が置かれました。視聴者は椅子に座るように求められ、完全に静止していると、最終的には木と竹が割れる音が聞こえ、2つの素材の違いが聴覚的にも視覚的にも明らかになりました。

角永和夫は、彼の家族は、製材所を営んで、彼は材料に精通していたので、彼は木に最初に描かれた1971年に本格的にアートを作り始めました。そして、アーティストは「手にいれやすかった!」と述べています。1980年代に彼は焦点を合わせる材料として紙とガラスを採用しました。どちらの状況でも、その後の素材に取り組む際にも、アートオブジェクトの作成を開始する前に、それらの製造プロセスとそれらの特性の観察に没頭することが彼の慣習でした。



角永和夫、木・紙・竹・ガラス、インスタレーションビュー。  
メインギャラリー、ソルトレイクアートセンター、2001年  
写真: Tracy Longley-cook





角永和夫、木・紙・竹・ガラス、インスタレーションビュー。  
メインギャラリー、ソルトレイクアートセンター、2001年  
写真: Tracy Longley-cook

ジョシン・イアンコ・スターレルズが展覧会に付随するカタログに書いているように、「彼（角永）は文字通りそして比喩的に木、紙、竹、絹、そして最近ではガラスにスポットライトを当てました。連続して、各要素が彼のトピックになりました。精査；彼はそれらの構成部品を分析し、それらの属性をテストし、それらの固有の特性を調べ、湿度の変動や強い衝撃への反応などの環境要因の変化に対するそれらの応答に注目しました。それぞれが彼の好奇心の顕微鏡の下でその瞬間を持っていました。彼らのユニークな特質を発見し、明らかにしたいという容赦ない願望によって。」

角永さんの作品について、ソルトレイクアートセンター所長のリック・コリアーは、次のように述べています。和夫は、天然素材、自然過程、意図的な変更の調査において、慎重かつ忍耐強く取り組んできました。彼の時間とリソースへの取り組みは、短い注意期間、限られた記憶、そして即座の名声への欲求を特徴とする世界で注目に値します。

和夫は、手作業による変更の制限、発見の不確実性、オブジェクトの開発の間のバランス、つまり平衡を見つけるために、自分自身と彼の資料に挑戦します。

出来上がった作品はとても美しく神秘的ですが、制御されているが予測不可能な環境での天然素材の操作のテストされていない調査を通じて未知を追求するというアーティストの熱心な情熱の副産物にすぎません。

今回の展覧会では、和夫と私が3度目のコラボレーションを行います。文化の違い、彼のオブジェクト、そして彼のアートに馴染みのないコミュニティのまったく新しい空間を含むコラボレーションです。私たちの関係のように、仕事は慣れ親しんでいる間、情報を与え、従事し、そして変化し続けます。角永氏は、ルイジアナ州のアレクサンドリア美術館を含む全米のギャラリーで個展を開催しています。テキサス州サンアントニオにあるブルスターアートスペースとサウスウェストクラフトセンター。ミシガン州グランドラピッズ美術館；スペースギャラリー、ロサンゼルス；ホノルルの現代美術センターは、日本、スウェーデン、ドイツ、オーストラリア、オランダでの個展やグループ展で紹介されています。

Wood Paper Bamboo Glass は、ソルトレイクアートセンターのディレクターであるリックコリアーと日米文化会館のビジュアルアーツのディレクターである小坂博和によって共同キュレーションされています。